

日時：令和8年3月5日（木）

13時30分～15時10分

場所：駅北庁舎3階保健センター親子研修室

1 あいさつ

2 議題

(1) 令和7年度事業報告と令和8年度事業計画について

①母子保健グループ

事務局説明 資料1

会長：新規事業として帯状疱疹ワクチン接種とあるが、接種率など教えてほしい。

事務局：3割から4割の接種率になっていると思われる。肺炎球菌ワクチンが開始された時も4割くらいだったので、それくらいを目指している。3月末までの実績としては、まだ接種者は増えると思われる。

会長：産後ケア事業の拡大について、もう少し詳しく教えてほしい。利用者は増えているか。どのような方が利用されるのか。

事務局：産後ケアについては、困っている人だけでなく希望者が使いたい時に利用できるもの。昨年度と同じ時期では、宿泊型28件、通所型80件、訪問型143件で今年の方が増加傾向である。宿泊型は産科医院の空きベッドを利用させてもらっているため、希望日に空いてなければ使えない。訪問型でお願いしたりしている。通所型も同様である。

会長：なにか対策はあるか。

事務局：多治見市近隣の産科医院さんで産後ケアを実施する予定の医院もあるため、依頼しようと思っている。

会長：こども家庭センターができたことにより、よくなったことはあるか。

事務局：毎月1回、こども家庭課と連携会議を行っている。ケースについて情報共有したり、どのようにしていくか検討したり、切れ目ないように支援していくような形になってきている。

会長：ワクチンのデジタル化については、各クリニックも電子カルテが必ず必要になるのか。

事務局：詳しくは示されていないが、電子カルテであるとスムーズであると聞いている。国のシステムを使用して連動できるようなことも聞いているが、詳しくはまだわからない。

②地域医療グループ

事務局説明 資料1

委員：クーリングシェルターの運営について、総合福祉センターでは、高齢者が涼みにみえるが、長時間、寝てしまわれる方もおられ困っている。

会長：地域の公民館等がクーリングシェルターになっているようだが、地域のみなさんはクーリングシェルターのことはご存じでしょうか。

委員：笠原交流センターでは2階の図書室をクーリングシェルターにしている。のぼりを立てて周知を図ったり、お声掛けしたりしている。

委員：がん検診について、令和3年度から減少しているようにみえるが受診率はどうか。そのようになっている要因はなにか。

事務局：令和7年度の受診者は前立腺がんを除き減少している。対象者が減少しているというのが一つの理由として考えられる。また、職域での検診、個人で人間ドックを受けられる場合もある。

会長：胃がん検診は内視鏡検査が増加傾向ですが、令和7年度と同様の医療機関で実施は可能か。
事務局：引き続き受けていただくことは可能である。

会長：Web予約の方が半数いるがトラブルはないか。

事務局：トラブルはない。今まで電話での対応に追われていたが、Web予約になりスマートに予約ができメリットのほうが大きい。

会長：歯科健診について、対象者を拡大して実施し若い方の反応等はどうか。その他、歯科健診についてご意見などお願いします。

委員：今年度から節目歯科健診の対象年齢を増やし、今まで受けられなかった年代が受けられるようになり、とても良いことである。特に、20歳代の方の受診が多かった。今まで学校で受けて以来、健診の機会がなかったからではないか。後期高齢者のさわやか口腔健診は結構PRしても5%くらいの受診率なので、若い人に多く受けてもらえてよかった。若いころから健診を受ければ、早めに対応できる、治療も少なくてすむ。

会長：美容の関係で若い人も受けられる方が多いと思う。

委員：子宮頸がんについて、HPVワクチンの関心は高まってきているか。

事務局：高校の養護教諭と話をする機会があり、HPVワクチン最終年となる高校1年生に伝えていただくようにしている。病院の先生からも小学6年生のDTの後、HPVを受けるよう勧めていただいている。市でも、受けていない方には勧奨はがきを送付しているが、まだ悩まれる方もある。

会長：HPVワクチンに関しては、ほとんど副作用はないと聞いているので、積極的に勧めていくとよい。

③健康づくりグループ

事務局説明 資料1

委員：オーラルフレイル予防21回は、保険年金課が実施しているさわやか口腔健診後の講座5回以外にも実施しているということか。

事務局：地域のサロン等から依頼を受けて歯科衛生士が実施したものである。

委員：来年度から、さわやか口腔健診も対象者全員に受診券が送られるようになるので、オーラルフレイルについて、いろいろな機会でも周知できるとよい。

委員：多悠連の活動そのものが健康寿命を延ばそうという目的で実施している。1月の講座はフレイル対策として、筋力アップ体操や体内成分測定など行い、参加者には毎年参加してもらい、データの変化に気づいてもらうように話している。今年度実施したオーラルフレイル講座は好評だった。

委員：ランチョンマットの配布は、食器の置く位置が記してあるため、小さな子でもわかりやすく、学校現場では好評である。また、防煙教育マンガも教科書にはあるがなかなか難しく、マンガを読むことによって理解しやすく有効であり、こちらも好評であった。来年度は動画ということで楽しみにしている。

会長：高校の出前講座について詳しく教えてください。

事務局：市内高校の養護教諭と年2回会議を実施し、高校時期からのハッピープランの推進を連携してやっていくということで、今年度、西高で実施した。食事アンケートやベジチェック、体内成分測定、お口のチェック、運動体験など行い健康づくりを学ぶ機会を提供した。

委員：地域の小学校では、野外活動で食改協が協力してカレーライスを作ったり、学校の家庭科の先生の応援としてレシピを考えたり、子どもと一緒に作ったりしている。地域で料理教室の希望があれば相談してほしい。食改協も15年前は200人近く会員がいたが、高齢化して減ってきている。高齢になってもお仕事をされる方も多く、食改協に80歳を超えてなられる方もあり、100歳を目指して、私たちの活動もみなさんの力を借りて

元気をもらってやっている。食改協をいろいろと使ってほしい。

会長：岐阜県でもヘルスプランをすすめてみえるが、多治見市の報告を聞かれて、なにか意見や保健所で実施してみえることなど教えてください。

委員：多治見市は多岐にわたりきめ細やかに活動されていることがわかった。岐阜県では昨年度から第4次ヘルスプランぎふ21に基づき健康づくりを推進している。東濃圏域の課題から、循環器病対策、糖尿病重症化予防・CKD対策、タバコ対策の3つを重点として関係団体と協働で進めている。東濃圏域健康づくり推進会議を開催し、関係団体と取り組みや課題の共有を図っている。ぎふ健康経営宣言企業の登録、企業への出前講座、スーパー等と連携した食環境づくりにも取り組んでいる。保健所や県などとも連携して進めていってほしい。

会長：薬局、薬店でも食生活や運動・タバコに関する相談はあると思うがいかがか。

委員：禁煙の内服薬が再開され禁煙外来も再開されているが、何度も来院され、ほんとにやる気があるのかと思うケースもある。どこに禁煙外来があるのかなど相談もある。慢性腎臓病に関しては、医師会が講演会を実施されたりして周知されており、慢性腎臓病の方や透析患者は減少していると聞いている。岐阜県の取組として、医師会や薬剤師会ではお薬手帳に腎臓シールを貼って、腎臓の値を気にしながら経過を追っていけるようになっている。効果が出てきていると聞いている。

会長：CKDについては早期発見が大切で、検尿や血液検査のクレアチンをみていく。原因としては糖尿病や高血圧、高脂血症、高尿酸血症などがあり、血管に動脈硬化がおこり腎臓機能が低下するので、早期発見していくことが、透析患者を減らしていくことにつながる。タバコに関しては、診療の場面でも苦労している。タバコのリスクを説明しても全く駄目である。禁煙する時は、心筋梗塞を起こした時や手術をする時であり、禁煙に導くのは難しい。小さいころからタバコを吸わない環境にすることが大切である。これも親が吸っていると難しく国の施策として罰金やたばこ代の値上げなど打ち出さないと、かなり難しい問題である。

委員：各公民館などのイベントで健康の啓発をしていただいている。電子タバコが普及しており、普通のタバコから電子タバコに置き換わっているので、どんどん啓発していくとよい。自殺予防として、「いのちの相談先」のカードなどを図書室の奥の方に設置しておく、誰かもっていかれているようである。地味な活動だが大事な活動だと感じているので継続していってほしい。

会長：電子タバコに関しては、タバコと同様に害はあると言われている。

(2) 地域ネットワーク会議（第2次多治見市いのち支える自殺対策計画進捗状況について）

事務局説明 資料2

委員：男性の80歳以上の自殺死亡率が高いのが気になった。男女差はあるのか。

事務局：自殺者数は、例年、男性の方が多い。全国的にも男性の方が多い（参考資料参照）サロンでも女性が大半を占めており、社会とのつながりでは男性は孤立しやすいのではないかと考えられる。

委員：地域福祉協議会でも男性の参加は1割以下のため、健康マージャンを実施したところ参加者が増えた。テーマを考えて実施するとよい。保健センターのお届けセミナーの中にゲートキーパーがあるが、一般の人が聞いてもよいものか。専門の人を育てていくものなのか。

事務局：ゲートキーパーは専門の資格ではなく誰でもなれるものであり、国が広く推進している。悩んでいる人に気づき、声をかけ、専門の相談機関につなぎ、見守るといふ人のことで、専門職でなくても周りの人がサポートする、みんなで孤立のないまちをつくろうという取り組みである。

委員：1月にゲートキーパー研修を聞いたがよかった。

会長：食生活改善推進員協議会さんで男性の方はみえますか。

委員：数人おります。

委員：ゲートキーパーは小中学校に広がってきている。SOSの出し方教室は数年前から100%の実施となっており、SOSの受け止め方教室も市内5-6校で実施した。子どもたちなりに、困っている子がいたら、こうやって声をかけようなど丁寧に教えていただいた。こういうのが広まっていくとよい。生徒指導主事会では、各校の心配な児童生徒のようすなど情報共有している。教育相談室の指導主事との情報共有も行い、連携をとってやっている。ハイパーQ Uは学校生活や仲間関係、学習の取組などのアンケートを実施し、分析すると学校集団の傾向と個別の傾向がわかるもの。学級生活を満足できるように手立てをうったり、個人への対応にも役立てたりしている。

会長：高齢者ひまわりサロンの参加者は増加傾向で高齢者の居場所になっていると思うが、考えを聞かせてください。また、子どもたちの相談できる場所として、学校以外に児童館・児童センターなどの機能についても教えてください。

委員：コロナで実施できていなかったサロンが再開された所もあり参加者は増加傾向である。4月に136のサロンがあったが、サロンのない地域に出向きキーマンを見つけて新しく立ち上げるなどして増やしている。男性の参加者が少ない傾向にあり、社協ではボッチャで参加を呼び掛けている。高齢者の健康づくりや生きがいに役立てている。児童館については、不登校の方も含めて居場所として利用されている。小さい子と関りをもつなど自分の役割を見つけて活動している子もおり、学校と連携をとりながら実施している。

会長：自殺する前に精神科や心療内科に受診していたかどうかはわかるか。

事務局：自殺者の個別ケースの詳細は知るすべがなく把握できていない。

会長：自殺は精神科などに受診することで防ぐこともできる。

保健所でも東濃圏域の自殺対策事業を実施してみえると思うが、多治見市の進捗状況への意見や保健所で実施してみえることなど教えてください。

委員：県では、令和6年度から第4期岐阜県自殺総合対策行動計画を策定し、医療機関、様々な関係機関と連携して推進している。第4期の計画では、児童のSOSに出し方教育と女性に対する支援が新たに追加された。改定された自殺対策基本法では、子どもの自殺対策を強化するように示され、学校における対策の充実、協議会を設置し個別ケースの検討を実施し、体制整備するよう言われている。多治見市は20代の女性の死亡が多いが、小中学生のころから不登校等の課題を抱えていることが多く、早期に対応していけるとよい。30-50代の働き盛りの男性の自殺者も多く、仕事をしており接点の持ちにくい年代だが、実態を見ながら対策を考えていくとよい。東濃保健所としては、働く世代への対策として労働基準監督署と共催でメンタルヘルスに関する研修会を開催している。また、弁護士と心理士による相談会、精神科医師による相談、ちらし等での周知など行っている。市と連携しながら自殺対策を推進していく。

委員：自殺死亡率の見方について教えてください。

事務局：人口10万人あたり何人死亡したかを示す指標である。

会長：みなさんの活動が、孤立防止や居場所づくり、自殺対策につながっているということを共有した。今後の事業の参考にしてください。

3 その他

事務局：次回の会議は来年度のこの時期に予定している。委員の任期は9月末までとなっており、委員変更等の調査を8月頃にさせていただく予定である。